

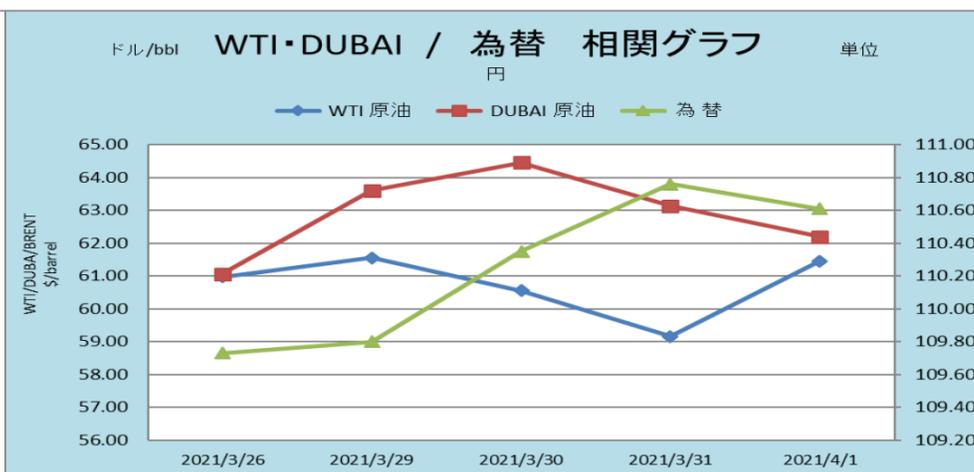
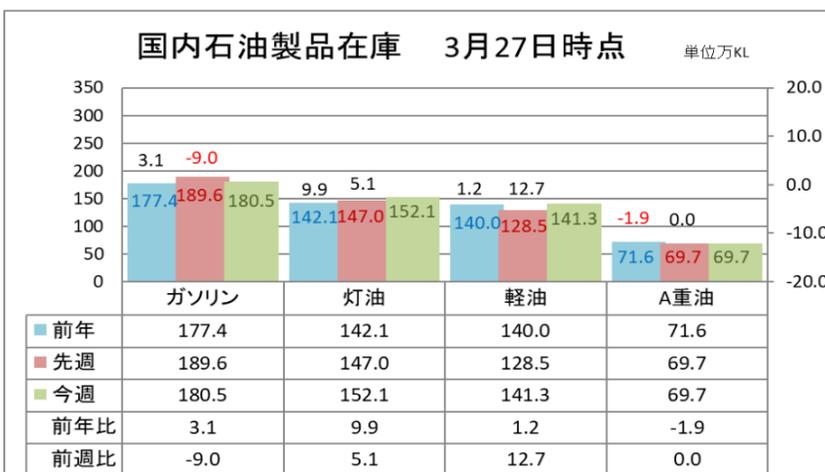
イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/4/2作成 (株)新出光

【概況】<原油相場は再度先高傾向へ>

- 26日、スエズ運河は87%まで進んでいる大量の砂の除去作業が完了すれば、座礁した船のけん引作業を再開できると説明しました。ただ、運河の全面的な通航正常化には時間がかかるとの見方が広がっており、影響の長期化で原油や石油製品の供給逼迫を招くとの懸念が再燃しています。
- 29日、スエズ運河は座礁した大型コンテナ船が離礁に成功したと発表しました。夜にも通航を再開するというを受けて通航遮断による供給懸念が後退して利益確定の売りが強まりましたが、OPECプラスは4月1日開催予定の会合で、前回会合同様、現行の生産水準をほぼ維持することで合意の見通しとの観測が広まり、供給超過状態の緩和期待などを背景に原油が買われました。
- 30日、OPECプラスは前回と同様、5月も現行の生産水準をおおむね維持するとの見方が増えていますが、最終的な決定を待ちたいとの機運から、この日は調整の売りが先行しました。また、外国為替市場でドルが主要通貨に対して上昇し、ドル建てで取引される商品の割高感が強まったことも相場の下押し要因となったようです。
- 31日、米エネルギー情報局(EIA)の週間統計で原油在庫の取り崩しが示されたことが好感され、反発しました。26日までの1週間の原油在庫は、前週比90万バレル減と、市場予想の10万バレル増に反して取り崩しとなりました。ガソリン在庫も170万バレル減(同予想70万バレル増)だったようです。
- 1日、OPECプラスは1日、テレビ会議方式で閣僚級会合を開催し、協調減産の規模を5月以降、段階的に縮小することで合意しました。市場では、現行の協調減産枠が5月以降も維持されるとの方針が有力視されていたものの、欧州での新型コロナウイルス感染再拡大を踏まえ、「段階的」な減産縮小にとどまったため、影響は限定的です。WTI原油相場は60ドル台を維持し、堅調に推移しています。

4月2日 | 17:00現在 | WTI原油 61.30ドル | 為替 1ドル 110.53円



	次回元売変動予測	
	4/8~	元売変動予測
ガソリン	➡	+1.5~+2.0
灯油	➡	+1.5~+2.0
軽油	➡	+1.5~+2.0
A重油	➡	+1.5~+2.0
LSA	➡	+1.5~+2.0

※現段階の原油コストによる予想です。

【製品卸価格】<先高傾向のため市況小動き>

《今週》今週の元売り仕切り改定はENEOS・コスモ「-1.5円」、出光シェル「-1.0円」の値下げでした。改定は異なりましたが、前週分と合わせて各元売りは-3.0円値下げしました。市況はすでに3月の消化売りによって下がっていたことありますが、月替わりでかつ年度初めになりますので、そこからさらに値下げして販売を進めるディーラーは限られたようです。また月初の見積りは非表示で提示しているディーラーも多く見受けられ、様子見姿勢が見受けられました。

《4月3日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで「+1.5~+2.0円」の値上げ予測です。OPEC+の会合の結果を受け原油相場も上がっており、次週の改定が値上げ予測の為に週末での仮需もあるようです。灯油については、気象庁の一月予報で平年よりも暖かいと予測されているために、各地早めの消化売りが始まっている様子が窺えます。現在市況を形成しているのは、主に週決め玉ですが、月間リンクの玉も市況に追随する形で少しずつ枠の消化を進めているようです。週末分は全国的に大幅な販価の見直しはなく、小幅での価格対応に留めているディーラーが多いようです。

【トピック】<OPEC+会合>

4月1日にOPEC+の会合が行われ、5月のOPEC加盟国と非加盟国の協調減産について話し合われました。事前の予測では現行の減産幅の維持とされていましたが、OPECプラスは5月から7月にかけて段階的に協調減産の減産幅を縮小していくことで合意しました。次第に生産数量が増加していきますが、各国でコロナワクチンの接種率が上がっており、石油需要が今後も上がっていくことへの期待感から原油相場も上がっていきましました。原油相場も一度は高値警戒感から下げ幅を拡大していましたが、スエズ運河のコンテナ船座礁やOPEC+の会合の予測を理由に下支えされていたために、会合結果を受け再度上げに転じています。そのため国内市況では次週4月8日以降の元売り改定が値上げになる可能性が高いこともあり、月間リンク玉は年度初めからの積極的な販売は避けているようです。